

町史より

小須戸町史(八巻)

(24)

思い出の学校

小向校(横水校)

本町内での学校沿革史として最も古い、明治十七年調の「小向小学校沿革誌(左写真)」が、現小須戸小学校に蔵されている。藤田三寸造(出戸村四ツ興野の用掛。当時小須戸学区の学務委員)の記述したもので、明治廿七年小向校が沿革誌をはじめ調整記述する際、底本としたものである。左に要点を記してみる。

一 小向小学校沿革誌(左写真)

一 教員及俸給

明治十三年十一月ヨリ十五

年七月マテ 月給四円 小須

戸町村民 授業生小泉卯内

全年八月ヨリ十七年十二月

マテ 月給九円 庄瀬村平民

七等訓導 田中民治

全年八月ヨリ十七年十二月

マテ 月給三円 庄瀬村平民

女授業生 小畑カネ

十六年一月ヨリ十七年十二

月マテ 月給貳円五拾銭 加

茂新田平民 授業生川崎和平

十七年三月ヨリ十二月マテ

小向村平民 野崎哲太郎

一 所在地 中蒲原郡小向

明治十七年調

六番小學區

小向小學校沿革誌(外)

水年係

一 生徒数
明治十三年 貳拾名(内男十七名 女三名)
全十四年 三拾名(内男貳拾三名 女七名)
全十五年 四拾三名(内男三十七名 女六名)
全十六年 六拾壹名(内男四十三名 女十八名内老名初等科卒業)

全十七年 五拾貳名(内男三拾七名 女十五名)
一 経費取入
明治十三年 但小須戸校ニ於テ取支スル義ニ付不詳

全十四年 金百三拾五円拾貳銭八厘 内四拾八円九拾銭

学資金本校ヨリ返戻ニ付利子金 八拾六円貳拾貳銭八厘組合協議費(以下略)

一 資本金蓄積
明治九年四月金四百八拾九円有志寄附小須戸本校ニ一時蓄積 明治十四年返戻

当初小須戸校区は水田・小向・横川浜・小須戸・子成場・新保・竜玄新田・出戸・四ツ興野・蔵管根・田嶋・福嶋

北瀧・円ノ花・三枚瀧の十五ヶ村で、四等訓導星兵吾を首座(主宰者)として、本校・附屬校(覚路津校・出戸校)に須藤保太郎・佐々木新太郎

江村三畏・高山勇齊・小泉宇内・吉沢豊熊・大関東作・井上孝吉・湯田長平らの授業生が教職に当った。小向校は「小須戸へノ里程遠隔寒暑就学上不便不勘ニ付」明治十三年

十四坪(十五年六坪増築)の小須戸校派出所を設け、小泉宇内が教師となった。十六年さらに「校組一般集議一決分離独立校上願ス」全年六月御認可相成」とあり、その尽力者として、水田村木村七四郎・海津弥寿雄、小向村井上頼

田・会田長三郎、横川浜村岡六右衛門・会田長作の諸氏の名が記名されている。最初的首座(校長は四等訓導田中民治。全氏は月俸九円にして奉職したが、「金沓円ヲ学区内経済多端ノ為メニ減シテ月俸八円ト改メ」明治三十四年まで村の教育に尽した。なお注目してよいことは全氏の出身地庄瀬より女授業生小畑カネをよんで授業にあたらせている。恐らく小須戸における最初の女教師であったらう。教場設置時就学児童数二〇名。当時の就学

範囲水田・小向・横川浜の就学率の資料はないが、県下の就学率が明治十三年で約三〇パーセントであるから想像できるだろ

う。学令は初等・上等が各々四年、進級は試験制度で初等でも終了することはむずかし

く、児童は学令年数内で退校した。明治十六年、小向校で第一号の初等終了者が女であったことも注目してよい。

当時の学校経営費はすべて地元負担で、最初が県への貢米の余米で充てたが、他の地同様経営逼迫、明治九年県の強力な指導で有志寄附が行なわれた。小向校区では四百八

拾九円の寄附金を「学校資本金」として本校に蓄積したとある。当初はこの金の利子と組合協議費で経営、十四年にこの金を小向校へ分離返戻してもらった。学校永続の資金については、当時どの町村でも辛苦のことで、これについてはまた後日に記したい。

かくて、明治二十五年横水小学校と改称、昭和三十年四月一日統合小須戸小学校となり廃校。想い出の学校となる。

横水実業補習学校 明治41年義務教育6ヶ年となる。全年「戊申證書」発布。大正2年、横水校、小須戸校、町内で最も早く、実業補習学校を小学校に附設。小学校卒業生に農業、修身、国語、算数を補習させた。前列左より2人目、小林弥之助校長。当時の少年の逞しい容姿がよくうかがわれる。



横水実業補習学校 明治41年義務教育6ヶ年となる。全年「戊申證書」発布。大正2年、横水校、小須戸校、町内で最も早く、実業補習学校を小学校に附設。小学校卒業生に農業、修身、国語、算数を補習させた。前列左より2人目、小林弥之助校長。当時の少年の逞しい容姿がよくうかがわれる。